

## 研究成果の紹介

## ブドウ「BK シードレス」の高夜温環境下の着色特性

「BK シードレス」の果実着色特性を温度制御下で調査した。果皮色値は高夜温条件でも緩やかに上昇し、露地栽培より遅れるが、9月上旬まで収穫時期を待つことで同等に着色することが分かった。

## 内容

兵庫県におけるブドウの生産現場では、近年の温暖化の影響により黒色大粒系の着色不良による品質低下が問題となっている。

「BK シードレス」(写真)は九州大学が育成した3倍体の黒色系品種(交配:「マスカット・ベリーA」×「巨峰」)で、兵庫県でも北播磨地域を中心に導入が進んでいる(2022年産:2.2ha)。県内の主力品種である「ピオーネ」よりも着色が良いとされるが、夏季の高夜温条件下における着色特性については不明である。そこで、温度を制御できる温室内で「BK シードレス」のポット栽培樹を、着色始期(7月17日)から着色後期(8月16日)までの1か月間、着色不良が生じやすくなる高夜温条件(夜間26℃、昼間31℃以上を維持)におき、その後、無加温で栽培し、7月7日から9月15日まで、10日おきに果皮色(カラーチャート(C.C)値)を調査した。



写真 BKシードレスの果実  
2023年9月5日撮影

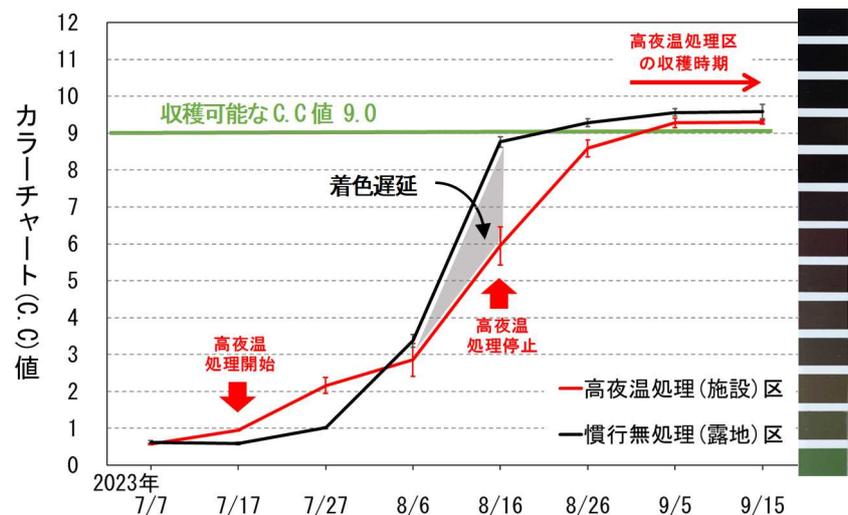


図 高夜温で栽培したブドウ(5年生)果実の果皮色(C.C値)の推移(2023年)  
満開日:高夜温処理区 5月20日、慣行無処理区 5月27日

高夜温処理期間の夜間(19時~5時)と日中(5時~19時)の平均気温は、高夜温処理区で27.4℃、日中33.7度、慣行無処理区で夜間25.3℃、日中33.1℃と、特に夜間で2.1℃の差が生じた。高温処理区の果実着色は加温期間中、慣行無処理区と比べて着色遅延が生じるものの緩やかに進展し、加温停止(8月16日)後も9月上旬まで高まった(図)。この結果より、9月まで収穫を待つことで高夜温処理区でも無処理区と同等(C.C値9.0以上)に着色することが分かった。なお、高夜温処理区は、8月6日~16日の加温期間と8月16日~26日の無加温期間の着色進展が同様に推移したことから、本品種の着色は温度の影響を受けにくく、生育が進むにつれて着色も進む特性を持つことが示唆された。

## 今後の方針

当センターでは有望品種の栽培特性を早期に把握し、温暖化等の気候変動へも対応可能な高品質安定生産技術の確立をめざしている。今後、着色特性に加えて、高夜温下における果実品質への影響も確認しながら本品種の現地導入を進めていく。 黒田 英明(農産園芸部)